



五小だより



五小ブログ



五小ボランティア

8・9月号

令和5年8月25日

国分寺市立第五小学校

校長 橋本 弥記

学校教育目標 ○元気な子 ○やりとげる子 ◎考える子 ○思いやりのある子

非常識から常識へ

研究主任 畑中 康輔

「大谷君へ 夢は正夢」

この言葉は当時北海道日本ハムファイターズ 栗山英樹監督が、当時高校3年生、高校卒業後メジャーリーグ挑戦を表明していた大谷翔平選手へ贈った言葉です。

現在の報道では、メジャーリーグで「二刀流」として活躍する大谷選手の様子が日本中の活力になっていると思います。

しかし、プロ野球に入団当時は、プロ野球選手OBや評論家など周りから「投手と打者の二刀流は無理だ。」「プロ野球を舐めている。」「常識的に考えて、二刀流は不可能だ。」など大谷選手が二刀流として活躍し、大成するとは思われていない状況でした。

時が過ぎ、今では、日本国民だけではなく、世界中に名を轟かせるほど大活躍しています。野球をやっている小学生の誰もが憧れている存在です。WBC優勝も記憶に新しいです。

昔では、「非常識」と考えられていた大谷選手の活躍が、現代では「常識」とされています。

現在の教育現場でも「非常識」と考えられていたことが「常識」とされていることがあります。一人一台端末もその一つです。いわゆるタブレットです。現代の教育活動では、生活科や理科の観察で写真を撮ったり、体育の器械運動で試技の動画を撮り、自分で見て技のポイントを確認したりしています。

本校では、昨年度より「自分の思いや考えをもち、すすんで表現する児童の育成～情報の効果的な活用・国語科を通して～」をテーマに研究を進めています。授業でタブレットを活用し、友達と交流する場面があったり、自分の伝えたい情報を視覚化し整理したりと、児童が情報を効果的に活用できるよう手立てを考え授業を創っています。9月には6年生・5年生・2年生の研究授業を予定しています。五小の子どもたちの学びにつながるよう教職員一同、研鑽を行っていきます。

「非常識から常識へ」学校も大谷選手への憧れをもち、授業改革に挑戦していきます。



東京都教育委員会児童・生徒表彰の推薦について

以下に該当する児童は9月末までに副校長までご連絡ください。

- (1) 地道な活動を継続的に行い、他の児童の範となる者
- (2) 自ら学び、考え行動した活動が契機となり、その効果が波及し他の児童に良い影響を与えた者
- (3) 環境美化活動や福祉活動、伝統・文化の継承活動、奉仕活動、地域社会における活動等を継続的に実践するなど、社会の一員として貢献しようとした者